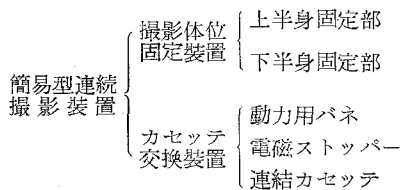


固定方法などにも全く考慮がはられていない装置が多い。そこでわれわれは、運搬可能で任意に取付けられ、撮影時体位固定方法などを考慮した簡易型連続撮影装置を試作したので紹介した。

本試作装置は、主として選択的血管心臓造影法用として設計したものであり、特長として次のことがあげられる。(1)動力にバネを用いたため軽量となり、運搬および任意取付けが可能である。(2)撮影時体位の固定方法が簡単で、しかも正確である。(3)連続で6枚のカセット交換が可能である。(4)透視台の上で血管心臓造影法の施行が容易となつた、などである。装置の構成は次の通りである。



使用方法は、まず透視台の上に撮影体位固定装置を置き、その上に被検者を仰臥せしめ、透視によりカテータルの先端が目的の部位に到達したことが確かめられたら、カセット交換装置をセットし、電磁ストッパーを動作させ連続撮影を施行する。

本装置を使用することにより、撮影時体位の固定が従来より正確になり、透視と撮影の2管球方式のX線装置があればどこへでも移動して血管心臓造影法が行なえるようになった。しかしながら、本装置は現在の段階では押ボタンによる人為的カセット交換法となつてはいるが、将来は専用の制御装置を作製し、選択的血管心臓造影法用のみならず、広範囲の連続撮影に利用できるような発展させたい。

## 22. 噴門部癌の X 線診断について

(放射線科) 後藤 千代

噴門部癌は内外の文献によれば、いずれも比較的少なく、全胃癌の約5~10%といわれ、早期診断は非常に困難とされている。その理由として挙げられるものに、噴門周囲から穹窿部へかけての粘膜皺襞像の複雑性、外部からの触診困難、先天的(解剖学的)または後天的に(ゆ着、ねじれなど)食道移行部の形、位置の異常、胃鏡でもこの部位は盲点である。ある程度狭窄が高度にならないと自覚症として現われず受診がおくれる、などがある。したがって噴門部癌に対するX線診断の意義は大きい。当教室において噴門部癌と診断した症例について検討したが、要は繰り返えし体位を換えて粘膜像ならびに

充盈像を慎重に観察することである。型としては噴門部に発生し食道下部に及ぶものが最も多く、食道からバリウムが胃内に流入する際の不規則な形、分裂した樹枝状粘膜像を連続スポット撮影により確認した。同時に食道内逆流、逆蠕動、二次的拡張を示しながら全然未だ通過障害を訴えない症例も見られた。次に単純透視で噴門部に腫瘤像らしい陰影を見、充盈して Trendenburg 体位で明らかな腫瘤に一致した陰影欠損を証明、これをそのまま立位に戻しバリウムの薄層で覆われた腫瘤像を認めた。これは穹窿部にある空気を利用したものであるが、食道開口部付近に発生し食道下部には及んでいない症例、殊に腫瘤の小さいものは診断が難しく、バルーン法による二重造影が推奨される。深呼吸時横隔膜の運動に伴う噴門部の形の変化により病巣の証明が可能な場合、また稀れには深呼吸時に肋骨弓下に腫瘤を触れることもある。Trendenburg の体位で穹窿部を充分に充盈し、辺縁の不整、変形を呈した症例、胃体部癌が進展したと思われた症例は硬性癌の型であつた。

## 23. 新生児の胸部 X 線像について

(至誠会第二・産婦人科) 大村ひさゑ

(同・小児科) ○都築 俊子・秋浜 示江

昭和37年2月より昭和39年1月までに至誠会第二病院産科において生まれた一見健康と思われる新生児451例に、胸部X線撮影を行ない、諸種の知見を得た。

検査対象の性別は男児237例、女児214例、うち未熟児は34例である。なお異常産児は61例である。

胸廓の型は、正常型238例、ベル型およびややベル型180例、三角に近い型33例である。

上縦隔肋膜陰影を認めるもの223例(49.5%)、毛髪像を認めるもの137例(30.4%)である。

つぎに肺紋理の認められるものは、右上肺野321例(71.2%)、右中肺野217例(48.3%)、右下肺野425例(94.2%)、左上肺野318例(70.5%)、左下肺野136例(30.2%)。肺門影については、右肺門影のみ認めるもの151例(33.5%)、左肺門影のみ認められるもの51例(11.3%)、両肺門影が認められるもの12例(2.7%)である。

なお胸腺陰影の認められるもの右側112例、左側25例、両側に認められるもの100例、計237例(52.6%)。肺野に異常陰影を認めたもの29例(6.4%)あるが、これらは経過観察中であり、うち1~2年経過を観察した胸腺肥大症の2~3症例を報告した。

## 24. 皮膚疾患における副腎皮質ホルモン剤の閉鎖包帯法について

(皮膚科) 大塚末野・細木梅子・○藤沢敬子

近年副腎皮質ホルモン剤の外用療法の一つとして、閉鎖鎖帯法—O.D.T—が注目をあびている。当教室においても、脱毛症、乾癬、ケロイドなど数種の皮膚疾患に対して本療法を応用したので、その方法、経過、成績等について報告した。

## 25. 腹部症状に続発した“いわゆる非特異性脊髄炎”の5症例

(三神内科) ○橋本真佐子・三神 美和・小山 千代・大久保つる・菅野 照子・熊野 満栄・小久保恵子

近年世界各地より、“Benign myalgic encephalomyelitis”ないしは“Encephalomyelitis simulating poliomyelitis”と呼ばれる疾患の集団発生が報ぜられており、わが国においても最近腹部症状に脊髄症状の続発する症例が多数報告され、報告者は、これを仮りに非特異性脳脊髄炎と呼んでいるが、これを一つの独立疾患とするか否かについては問題となつている。

当教室においても、昭和38年8月以降、胃腸症状に続発する脊髄炎の5症例を経験したので報告する。

患者は全例いずれも女子で、そのうち4例はそれぞれ虫垂炎、十二指腸潰瘍、回盲部癌、子宮癌の手術後に胃腸障害を訴え、1例は下痢を主訴として入院しその経過中に発病している。

発病は急性、又は亜急性であり、胃腸症状発現から概ね1週ないし1カ月後に神経症状が出現している。

共通の症状としては、下半身の運動および知覚障害、膀胱直腸障害等で、発熱、頭痛、視力障害等を認めず、髄液は1例に軽度の細胞増多を認めた他は異常所見を認めない。

経過は比較的良好で、全経過は1~10カ月、死亡例はなく、4例は不全治癒、1例は不治で引続き経過観察中である。

本症の原因については、未だ確立されておらず、低タンパク血症、低V.B<sub>1</sub>、V.B<sub>2</sub>の代謝異常、また腸管ピールスとの関連等があげられているが、いずれの報告者も未だピールスを証明していない。われわれの症例は、いずれもピールスの検索を行なっていないが、その臨時的所見、細菌学的ならびに其の他の検査事項より、諸家の報告の非特異性脊髄炎の範ちゆうに属するものと考えられるのでここに報告した。

## 26. 眼トキソプラスモース症例

(眼科) ○氏原 弘・木村美佐子・鳥沢晶子

トキソプラスモースの眼発症は、通常中心性網脈絡膜炎の臨床像を以って始まる。眼底所見には比較的特有

の所見、特に delle 形成が特徴的に見られる事が多いが、特徴的所見を欠く場合も少なくない。したがって、診断上トキソプラスミン皮内反応、赤血球凝集反応および色素試験等が有力な手掛りとなる。特に後2者が陽性の場合には本症を疑つて治療を行なう必要がある。治療法としてサルファ剤および daraprin の内服が有効である。最近中心性網脈絡膜炎の臨床像を以って発症し、皮内反応および赤血球凝集反応が陽性であり、治療によつて軽快した2症例を経験したので、本症の概説と併せて報告した。

## 27. 人型結核菌の変異；——患者より分離された結核菌の生物学的性状、特に寒天培養について——

(細菌) ○須子田キヨ・平野 憲正・

野地 キミ・弥吉 真澄・中野 寿夫・寺内 和子

数年来私共教室では、いわゆる非定型抗酸菌について広範な研究を行なつて来た。その結果、非定型抗酸菌が人型結核菌と異なる主なる点は、非定型抗酸菌はナイアシン陰性、寒天培地に発育し、モルモットに対する毒力がない。これに対して人型結核菌はナイアシン陽性、寒天培地に発育せず、モルモットに対する病原性が強いという諸点にしばられると考える。まず病原性の問題については、われわれは先にウサギの辜丸に本菌を接種した実験成績によつて、また米国では本菌感染の患者からの病理組織学的所見から、いずれも非定型抗酸菌と人型結核菌とは区別のできないことが認められた。残る問題は寒天培地に発育するか否かということと、ナイアシン産生の有無である。既にわれわれは人型結核菌の保存株は寒天培地に生えることを報告した。今回は更に一步をすすめて、結核患者から分離した結核菌の諸性状をしらべると共に、保存株と同様に寒天培地に生えるものがあるのではなからうかとの考えのもとに本研究を行なつた。すなわち本学付属病院検査室のほか、3病院検査室から合計165名の患者から分離された165株について実験した結果、90余株は普通寒天培地に発育可能であつた。この寒天培養は約1カ月を要し、初めは発育の悪いものが多かつたが数代継代すると rapid grower となるものがあらわれた。生物学的性状にはばらつきがあつて、それと寒天培養の成績との関係は認められなかつた。ナイアシンはすべて陽性であり、数株のものについて行なつた実験では、モルモットに病原性が認められた。それ故この165株はすべて結核菌であることは確実であるが、既にわれわれが述べたように“結核菌”と呼ばれるものの中には、栄養要求の上からは定型的とは言い難く、変異しているものもあるであろうと考えなければならぬ。この